

# 令和4年度 年度計画

# 目 次

I	教育	
	・ 教育内容の充実	… … 1
	・ 教育の質保証	… … 1
	・ 学習環境及び教育環境の充実	… … 2
	・ 附属高校の教育の充実と高大接続の推進	… … 2
II	研究	
	・ 研究力の向上	… … 3
	・ 研究推進体制の充実	… … 3
III	地域連携	
	・ 地域のステークホルダーとの関係構築	… … 4
	・ 地域のシンクタンクとしての機能充実	… … 4
	・ 学び直しの機会の提供	… … 4
IV	国際交流	
	・ 海外の大学との研究・教育交流の充実	… … 5
V	法人運営	
	・ ガバナンス体制の充実	… … 6
	・ 健全で安定的な法人運営	… … 6
	・ 働き方改革の推進	… … 6
	・ 情報発信の推進	… … 7
VI	予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画	… … 8
VII	短期借入金の限度額	… … 8
VIII	重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	… … 8
IX	剰余金の使途	… … 8
X	県の規則で定める業務運営事項	
	施設・設備に関する事項	… … 8
	積立金の使途	… … 8
	その他法人の業務運営に関し必要な事項	… … 8
	(別 紙)	
	令和4年度 予算	… … 9
	令和4年度 収支計画	… … 10
	令和4年度 資金計画	… … 11

## I 教育

### <教育内容の充実>

- 学習コモンズ制による少人数対話型教育を通してコミュニケーション能力の向上を図る
  - ・主体性とコミュニケーション能力を育成するために、ゼミにおいて各学年ごとに段階的に継続的な学びを実施する
  - ・カリキュラムの整理に沿って、具体的な講義科目やゼミの開講準備を進める
  - ・実践的な課題解決能力を身につけるため、自治体等と連携したPBLをゼミ活動やフィールドワーク科目で実施する
  
- グローバル人材の育成に向けた語学教育の充実を図る
  - ・外国語の教育プログラムを整理し、英語の必修化及び習熟度別クラスの編成を実施する
  - ・ネイティブ教員による実践的な授業科目を充実する
  
- 教養教育の一層の充実を図る
  - ・カリキュラムの整理に沿って、具体的な講義科目の開講準備を進める
  
- 新たな教育研究組織の設置に向けた準備を行う
  - ・県における新学部検討の進捗状況に応じて必要な準備を進める
  - ・令和3年度の検討結果に基づき、大学院設置に向けた準備を更に進める

### <教育の質保証>

- FD研修などを通して教員の教育能力向上を図る
  - ・教学IRの取組と連携し、本学の特色をいかしたFD活動を組織的に実施する
  
- 教員組織を充実し教育機能の強化を図る
  - ・教育、研究、社会活動、大学運営について、データを用いて多面的な評価を進める
  
- 学修成果の可視化を行うなど、教学マネジメントの推進を図る
  - ・教学IRに関するデータ分析等の取組を進める
  - ・学修ポートフォリオや授業アンケート等、教育成果と学修成果の可視化を図るためのツールを整備する

## ＜学習環境及び教育環境の充実＞

- 学生生活に対するサポート体制を充実する
  - ・履修に関する学生の疑問に答えるため、前期、後期の履修登録期間中に教務委員会による履修相談会を開催する
  - ・学習に関する学生の悩みに答えるため、学生の要望に応じて、ポートフォリオ等を参照し、ゼミ教員が相談を受け付ける
  - ・メンタルヘルスカウンセリングについて、利用方法を学生にわかりやすく周知し、利用しやすい環境づくりを行う
  
- 学生の進路選択をサポートする体制を充実する
  - ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、受入可能な企業・自治体でのインターンシップを実施する
  - ・業界研究や企業説明会のための企画を対面・オンラインで開催する
  - ・カリキュラムの整理に沿って、キャリア教育の充実を図る
  
- キャンパス整備を推進する
  - ・県の計画に沿ってクラブハウスを新築整備する
  - ・県担当課と教育研究棟(仮称)の仕様について検討・協議を実施する

## ＜附属高校の教育の充実と高大接続の推進＞

- ICT等を活用した主体的な学びや高度な高大連携教育を実施する
  - ・多様な生徒の実態を踏まえ、一人一人のアセスメントを通して個別最適化された学習を推進する
  - ・ICT機器を活用した反転学習やAL型授業を推進するための教員研修を実施する
  - ・附属高校と大学との連携を図るための運営会議を設置し、「課題探究」、「APプログラム」、「特別推薦制度」等の具体的な取組について協議を行う

## Ⅱ 研究

### <研究力の向上>

- 研究水準の向上を図るとともに、研究成果を積極的に公表する
  - ・「奈良県の発展に資する研究」など地域の課題解決につながる研究を実施する
  - ・共同研究や受託研究、学術研究制度により、研究力の向上を図る
  - ・地域創造研究センターと附属図書館が連携し、奈良県立大学リポジトリのコンテンツの充実を図るなど、研究成果の蓄積と発信を行う
  - ・ユーラシア研究センターにおいて調査研究活動のための研究会を開催する
  - ・ユーラシア研究センターの調査研究活動成果についての一般書籍、報告書を発行する
  - ・ユーラシア研究センターの調査研究成果発表のためのフォーラム等を開催する
  - ・ユーラシア研究センターの調査研究成果報告のための情報誌『EURO-NARASIAQ』を発行する
  - ・ユーラシア研究センターで取り組む研究題材を活用した、本学での講義を行う

### <研究推進体制の充実>

- 競争的研究資金の獲得等の研究支援組織の充実を図る
  - ・科学研究費補助金等の外部資金獲得を推進する
  - ・科研費申請支援講習会を実施する

### Ⅲ 地域連携

#### ＜地域のステークホルダーとの関係構築＞

- 産学公民連携を促進する
  - ・地域の産学公民各団体と連携し、調査研究・社会活動事業を実施する
  - ・企業との共同研究を実施する
  - ・県内自治体等の課題に対応するための受託研究を実施する
  
- 教育研究を通じて社会的課題の共有と知的交流を深める
  - ・新型コロナウイルスの感染拡大を踏まえたうえで、安全の確保できる場合に限り、センターのシンポジウム、研究ユニットの研究活動報告会、フォーラム、ワークショップを開催し、地域課題の共有と知的交流をはかる
  - ・出前講義を通じ、地域や高等学校をはじめとする教育機関等と連携する

#### ＜地域のシンクタンクとしての機能充実＞

- 地域創造研究センターを通じた活動を充実する
  - ・地域創造研究センターを中心に、住民・学外研究者・行政と連携し、奈良県南部・東部に関する課題検討の場を構築する
  - ・地域創造研究センターにおいて、地域からの相談を受け付ける
  - ・地域創造研究センターの研究シーズ及び成果を積極的に発信し、地域連携につながる取組みを促進する

#### ＜学び直しの機会の提供＞

- 地域における生涯学習の拠点として、学び直しの機会を提供する
  - ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえながら、安全が確保できる場合には従前の形にとらわれず奈良県立大学シニアカレッジを実施する
  - ・新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、安全が確保される場合には、本学教員の地域貢献活動の一環として出前講義をおこなう

## IV 国際交流

### ＜海外大学との研究・教育交流の充実＞

- 学生に対する留学相談、情報提供、留学支援制度を充実する
  - ・ 受入れる交換留学生に対し、本学学生との交流会の実施や医療に関する情報の積極的提供等、学内及び日常生活でのサポート体制を行う
  - ・ 対面またはオンライン等実施可能な形式で学内留学説明会を実施し、本学留学生制度に加えてオンライン語学研修を積極的に紹介する
  - ・ 海外協定校と本学からの留学希望学生によるオンラインでの交流会を実施する
  - ・ 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、オンライン開催の方向性も探りながら、可能であれば東アジア・サマースクール2022を実施する
  
- 海外の大学・研究者との学術交流を促進する
  - ・ 新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、対面またはオンライン等実施可能な形式を検討し国際セミナーを実施する

## V 法人運営

### <ガバナンス体制の充実>

- 理事長と学長（副理事長）の連携によるガバナンス体制を充実する
  - ・機動的な法人運営を行うため、学内理事による財務状況等の情報共有を実施する
  - ・学長裁量経費を活用し、教育研究活動を推進する
  - ・教育研究活動に係る情報や財務情報等をホームページで適切に公開する
  - ・コンプライアンス向上についての研修会を実施する
  - ・業務を合理的及び効率的に行うために、正確性や公正性だけでなく3E（経済性・効率性・有効性）の観点も重視した監査を実施する
  - ・法人監事と連携し、法人の業務改善や事業の成果向上に資する監査を行う

### <健全で安定的な法人運営>

- 安定的な財務状況を維持する
  - ・適切な予算配分と目的積立金の効果的な活用により、健全な財政を維持する
  - ・科研費、受託事業等の自主財源の確保を図る

### <働き方改革の推進>

- 勤務環境の改善を進める
  - ・県人事交流職員の人事評価結果を給与へ反映する
  - ・契約事務職員の人事評価結果を給与へ反映する
  - ・旅費申請の電子決裁等システム化を図る
  - ・教務システムをクラウド型システムに更新し、コスト削減とセキュリティ機能を向上させる
  
- SD研修等により教職員の意識改革を進める
  - ・教職協働や事務職員のスキルアップなどをテーマとしたSD研修を実施する

## <情報発信の推進>

### ○ 戦略的な広報を展開する

- ・同窓会・後援会と定期的に意見交換を実施し、大学の活動への理解を深めてもらい、協力体制を推進するとともに創立70周年（令和5年度）に向けた記念事業などの準備を進める
- ・見やすく、情報にたどり着きやすいホームページに更新する
- ・SNSのサービス機能を利用した広報を実施する
- ・アドミッションポリシーにかなう学生を確保するため、オープンキャンパスや高校訪問などについてオンラインも併用しながら積極的に実施する
- ・大学広報誌『Narapu』を通して、教育・研究・地域連携等の取組みと成果を発信する

## VI 予算（人件費の見積りを含む）、収支計画及び資金計画

別紙のとおり

## VII 短期借入金の限度額

1億円

## VIII 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画

なし

## IX 剰余金の使途

決算において剰余金が発生した場合は、教育・研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる

## X 県の規則で定める業務運営事項

### 1 施設・設備に関する事項

県と連携して、新たな大学整備計画に基づくキャンパスの整備及び修学環境の改善・整備を推進する

### 2 積立金の使途

前中期目標期間繰越積立金については、教育・研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる

### 3 その他法人の業務運営に関し必要な事項

なし

(別紙)

予 算

令和4年度 予算

(単位：千円)

区 分	金 額
収入	
運営費交付金	278,182
中期目標関連費補助金	368,155
奈良県立大学修学支援補助金	47,040
高等学校等就学支援金	20,390
自己収入	398,817
授業料、入学金及び入学検査料収入	351,695
諸収入	47,122
受託研究等収入	10,000
寄附金収入	700
計	1,123,284
支出	
業務費	1,113,284
人件費	781,793
教育研究経費（寄附金経費を含む）	274,223
一般管理費	57,268
受託研究等経費	10,000
計	1,123,284

収支計画

令和4年度 収支計画

(単位：千円)

区 分	金 額
支出の部	1,145,836
經常費用	1,145,836
業務費	1,066,016
教育研究経費（寄附金経費を含む）	274,223
受託研究等経費	10,000
人件費	781,793
一般管理費	57,268
減価償却費	22,552
収入の部	1,145,836
經常収益	1,145,836
運営費交付金収益	278,182
奈良県立大学修学支援補助金収益	47,040
高等学校等就学支援金収益	20,390
授業料収益	286,689
入学金収益	46,890
入学考査料等収益	18,116
受託研究等収益	10,000
寄附金収益	700
補助金収益	368,155
雑益	47,122
資産見返補助金等戻入	22,552

資金計画

令和4年度 資金計画

(単位：千円)

区 分	金 額
資金支出	1,123,284
業務活動による支出	1,123,284
資金収入	1,123,284
業務活動による収入	1,123,284
運営費交付金収入	278,182
授業料等収入	351,695
受託研究等収入	10,000
その他収入	483,407